

# 2023年度学校運営評価

## 【方法】

2023年度の各看護領域及び係・委員会の自己点検・自己評価に基づき、学校運営評価(8カテゴリー・60項目)を教職員22名(教員17名、職員5名)で実施した。60項目それぞれについて関連する取り組みを記載後、全教職員で内容を吟味し評価点を付けた。3点に満たない場合はその理由を明記し、次年度の課題を明確にした。

## 【2023年度 総評】

2023年度の取り組みの主要事項及び成果について述べる。「I. 教育理念・教育目的・教育目標」「II. 教育課程経営」においては、新旧カリキュラムが混在する形で進行したが、履修に関するガイドンスを行い、時間割上に明確に記すことで混乱は無かった。Covid-19が5類に移行し、感染対策を継続しつつ、保護者と少數の来賓を招いた式典を再開できた。「III. 教育活動及び評価」においては、コロナ禍における安全な学修環境を引き続き確保した。学習を補強する目的で、録画講義配信システムを、2階大教室に加え3階大教室にも設置した。シミュレーター2台(フィジコ・小児ラング)を追加購入し、アクティブラーニング及びICTの積極的活用に取り組んでいる。「IV. 経営・管理過程」においては、学則について法人の点検を受け必要事項について改訂した。校舎南側外壁のリニューアル工事、屋外ライトアップ工事などを行い、安全快適な学習環境の整備に努めている。学生生活支援として、地方自治体奨学金および社会人受験生対象「専門実践教育訓練給付金」が受給できるよう手続きした。当校の外部への情報提供の手段として、学校HPデザインを改修し、式典後の保護者説明会を再開した。「V. 入学」においては、看護師養成所での学びについて周知するため、市の広報誌や受験情報誌に記事を掲載し、また「看護教育100周年」記念誌を発行し広く頒布した。高校の進路ガイダンスの対面参加を再開し、また当校の学校説明会を年間5日開催した。社会人の入学を促進するため、入試方法を見直した。「VI. 卒業・就業・進学」においては、国家試験合格率95.5%であった。各教員が模擬試験結果等を分析して、授業に生かしている。また就職に向けて、2年生対象に日本医科大学病院の見学会が行われている。「VII. 地域社会／国際交流」においては、千葉北総病院の災害訓練に学生がボランティアとして参加した。国際看護の授業にて、在留外国人から自国と日本の医療システム比較の講義を受けた。「VIII. 研究」において、「看護の本質をふまえた看護教育」はじめ、「多様性社会と人権」、「看護教育におけるハラスマント対応」等の複数の研修に教員が参加した。

今後の課題として、1. 学生の学力向上に向けて、常勤・非常勤講師の協働に基づく授業内容の一層の充実、2. これまでに整備したICTを効果的に活用したアクティブラーニングの一層の推進、3. 広報については、学校ホームページとSNSの活用、広報媒体のリニューアル、4. 少子化社会における受験生確保、5. 国家試験結果データ分析に基づく授業の強化と合格率の向上、6. 卒業生の就業状況の把握と職場適応に向けた就職先医療機関との連携強化が確認された。

## 【学校運営評価 集計結果】

I ~ VIIIの各カテゴリーについて、評価項目ごとに3段階評価を行い、各カテゴリーの平均値を算出した。

【評価尺度】「カテゴリーの各項目の取り組みは優れている、又は前年度の課題が解決された」  
当てはまる:3 やや当てはまる:2 当てはまらない:1

No.	カテゴリー	下位項目数	評価項目数	平均値
I	教育理念・教育目的・教育目標	2	2	2.9
II	教育課程経営	6	12	2.8
III	教育活動・評価	8	8	2.8
IV	経営・管理過程	11	23	2.9
V	入学	3	5	2.9
VI	卒業・就業・進学	4	4	2.9
VII	地域社会／国際交流	2	2	2.9
VIII	研究	2	4	2.9

